

WE NEED GOOD PATHOLOGISTS

腫瘍病理学講座
玉城 智子 (24期生)

皆様こんにちは。24期生の玉城（旧姓：川上）智子です。私は琉球大学医学部を2010年に卒業し、琉球大学医学部附属病院で2年間の初期臨床研修を行い、この4月から腫瘍病理学講座（旧：病理学第一講座）に入局しました。

現在、腫瘍病理学講座には吉見直己教授をはじめ計16名の医局員（医師8名、技官3名、院生2名、客員・共同研究員3名）が所属しています。病理は基礎と臨床の両方の側面を持つ分野であり、臨床面では腫瘍病理学講座と細胞病理学講座（旧：病理学第二講座）の二つの講座で、週交代で附属病院の診断業務に当たっています。具体的な業務内容としては、病理検体（手術・生検材料）の切り出し・診断、術中迅速診断、細胞診、剖検・CPCなどがあります。研究面では、①大腸癌における前癌病変の分子病理学的解析とその顕在化に関する研究、②天然由来のがん化学予防物質の検出とその分子病理学的作用メカニズムの解析、③IT技術の病理診断システムへの応用とその実施、といったテーマに関して院生、客員・共同研究員を中心に日々取り組んでいます。

また、基礎と臨床の両方の側面を持つことから、3年次の病理学の講義・実習・ACS、4年次の基礎配属、5年次のポリクリ、6年次の自由選択ポリクリ・・・と学生さんとの関わりがとても多い講座でもあります。実際、この原稿を書いている6月時点では講義・基礎配属・ポリクリ・自由選択ポリクリのすべてが重なるため、少ない人手をフル回転させながら、琉球大学医学部の掲げる臨床・研究・

教育の三本柱を体現しています。

近年、全国的にも病理医の数が少ないことが懸念されていますが、沖縄県内では病理医の高齢化（市中病院を支える病理医の約半数が50代以上）が進んでおり、数年以内に危機的状況を迎えると言われていました。しかし現在、腫瘍病理学講座・細胞病理学講座の両講座で計7名の医師が病理専門医を目指して研鑽中であり、若手を中心に沖縄県の病理を盛り上げて行こうという運気が高まりつつあります。この7名の中には、初期研修を終えたばかりのフレッシュな人材だけでなく、既に他科で専門医や学位を取得された経験豊富な先生方もいらっしゃいます。将来の進路決定に迷っている学生さんや研修医の皆さんをはじめ、専門医や学位の取得を目指される方、第二の医師人生を模索中の方、出産・子育て等を機に働き方を考えた方・・・腫瘍病理学講座は幅広く門戸を広げて皆様をお待ちしております。

